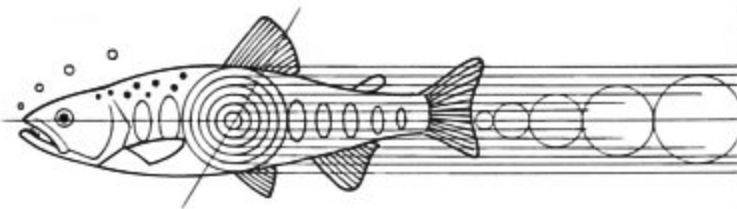


news

長良川市民学習会ニュース



長良川河口堰の開門調査を実現しよう。



No.16

2013年9月1日

表紙・目次(小紅の渡し).....P.1

情勢・活動報告.....P.2~3

長良川河口堰と塩害(1).....P.4~7

長良川を語る(2).....P.8~11

校歌に歌われた長良川・事務局より.....P.12

〈表紙写真〉 撮影/田中悦雄

小紅の渡し(おべにのわたし) 今では長良川でただ一つの渡し船です。岐阜市の饒島と対岸の一日市場を結んでいます。

長良川を放射能で汚してはならない! 私たちは、原発の再稼動に反対します。

情勢・活動報告

長良川市民学習会事務局長 武藤 仁

NEWS15号発行（2月21日）以降の長良川をめぐる動きと長良川市民学習会の活動報告をします。

再び「県土破壊と財政破綻の道」を進むのか？岐阜県予算

岐阜県は平成25年度予算編成において、内ヶ谷ダム建設について前年予算の約3倍の11億5300万円（国庫6億2810万円、県債5億2490万円）の事業費を計上し、平成27年度本体工事着手のために河川を一時的に切り替える転流工の着手を明らかにしました。

昨年度も12月段階で既に9億6800万円に膨らませていましたが、これは6月の「事業検証」結果が「補助金交付継続」と決まったことをうけて工事用道路等で増額変更したものです。

「国土強靱化」・アベノミクスが闊歩するもとで岐阜県はそれに追随し、今年度予算編成で本事業の本体着工

を1年、完成年度を2年前倒しする方針を明らかにしました。貴重な清流の源を重機で破壊するとともに、これまで3年間福祉教育費等の大削減で県民に我慢を強いて「起債許可団体」を脱却した岐阜県財政を再び借金地獄へ転落させる行為で許すことはできません。

長良川市民学習会は流域の市民団体に呼び掛け3月19日「内ヶ谷ダム転流工事予算編成に抗議する」声明を発表しました。5月15日には当会はじめ流域6市民団体名で岐阜県に対し「木曽川水系連絡導水路、長良川河口堰及び内ヶ谷ダムに関する」要請を行い導水路事業中止、河口堰開門調査実現、内ヶ谷ダム建設の再検討を求めました。

内ヶ谷ダム建設事業

〈単位:円〉					〈単位:円〉	
	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度		平成24年度
決算額※1	299,776,100	127,014,100	127,018,513	102,612,200	予算額※2	968,000,000
財源	国費	164,877,000	69,857,000	69,316,000	国費	527,100,000
	県債	134,800,000	57,000,000	54,800,000	県債	396,700,000
	一般財源	99,100	157,100	2,902,513	一般財源	44,200,000

※1 当年度決算額(前年度繰越額を含む) ※2 最終予算額(3月補正後) 当初予算は、3億8千万円。

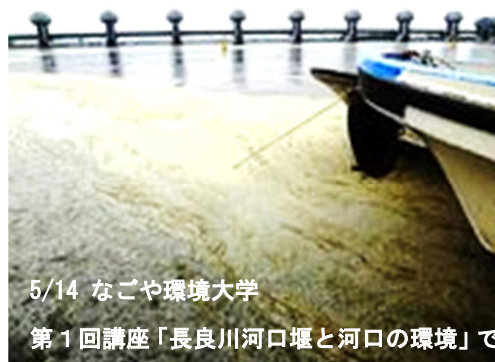


5/15 岐阜県要請行動

よみがえれ長良川！

河口堰開門の声が広がっています。長良川市民学習会は市民の関心が強いアユをテーマに3月20日市民学習会「長良川のアユに何が起きているのか？」を開催しました。長良川のアユ研究の第一人者である新村安雄さんの講演を基調として、討論「長良川のアユ、いま、むかし」には長良川漁協から山中・大橋両副組合長、長良川中央漁協からは中山副組合長の登壇で市民も注目し、会場定員を超える110名の参加で盛り上がりました。討論の様子は本NEWS8～11ページをご覧ください。

長良川市民学習会は「よみがえれ長良川！」実行委員会の仲間とともに今年も「なごや環境大学」に参加し共育講座を企画しました。長良川の河口を見学する第1回講座では川面に広く黄緑色の藻類が漂うおぞましい姿を見て、参加者一同長良川の環境の深刻な状況を実感しました。第4回講座は9月29日（日）名古屋東別院会館にて開催します（12ページ参照）。是非ご参加下さい。



5/14 なごや環境大学

第1回講座「長良川河口堰と河口の環境」で

韓国忠清南道ソチョン郡で「クムガンー長良川海水流通政策討論会」

生物多様性COP10を契機に韓国のダム・湿地に関わる環境市民団体との交流・情報交換が進んでいます。今回は長良川市民学習会、中部の環境を考える会、大阪自然環境保全協会、日本環境法律家連盟のメンバー11名で「韓国四大河川事業視察と交流ツアー」(6/15～6/19)を行いました。訪問先はナクトンガン、ヨンサンガン、クムガン、セマングム、シファ湖などで昨年の続編です。今年は河口堰や河口の湿地を中心に視察しました。「湿地と鳥たちの仲間」、グリーン 코리아、KFEM(韓国環境保護連合)など多くの市民団体の皆さんと交流ができました。



グムガンー長良川
6. 17海水流通政策討論会

グムガン河口堰があるソチョンでは郡主催の「グムガンー長良川海水流通(汽水域回復)政策討論会」がセットされていました。郡長はじめ郡の政策スタッフの歓迎と「歓迎！日本長良川海水流通市民団体」の立派な看板にわが視察団はびっくり。討論会では長良川河口堰、淀川、クムガン河口堰のそれぞれのプレゼンテーションから始まり討論が進みました。グムガン河口堰開門に向けたソチョン郡の取り組みは活発でとても勉強になりました。堰開門に向け毅然としたナ・ソイエオル郡長の姿勢はとても印象的でした。この討論会やクムガンの視察にはKBSはじめたくさんの方の報道陣が訪れ、私たちはインタビュー攻めにあいました。来年秋に韓国で生物多様性COP12が開催されます。それまでに日韓でともに「河口堰開門」に向けた成果をつかみたいのです。

	クムガン(錦江)河口堰	長良川河口堰
河川延長	クムガン 395 km	長良川 166 km
流域面積	9,810 km ²	1,985 km ²
河口堰延長	1,841 m	661 m
建設目的	農水、工水	工水、上水、洪水対策
建設期間	1983年～1990年	1988年～1995年
事業費	1,010億ウォン	1,500億円

「国土強靱化」の名の国土破壊をストップしましょう！

7月21日の参議院選挙の結果は自民大勝、民主惨敗。一方で共産党の躍進、山本太郎・糸数慶子氏の当選、三宅洋平氏の大得票など注目すべき動向がありました。「国土強靱化」の動きが強まる中、私たちに今どのような取り組みが求められているのでしょうか。

水源連情報によれば2009年の政権交代時に全国で145のダム事業が計画・工事中でした。84ダム事業が検証対象となりました。ダム検証が2010年秋から始まって3年近く経ち、64ダム事業の検証が終わりました。検証対象のうち問題となっているダムのほとんどは事業継続でした。検証中のダムはあと20ダムです。長良川に関して言えば、「木曾川水系連絡導水路」がその20のうちに入っています。気が抜けない状況です。内ヶ谷ダムは64ダムのうちに入り状況は冒頭に述べたとおりです。内ヶ谷ダムと同時に検証された事業に「石木ダム」があります。この事業は主体が長崎県で「事業継続」が決定しましたが、立ち退きを迫る権力に対し住民の文字通り命を懸けた戦いが続いています。全く必要がないダムで地元住民の生活基盤を力づくで奪う土建国家日本の象徴的な事業です。全国的な支援が求められています。11月9日には長崎市で全国集会が計画されています。また長崎県に「石木ダム建設中止」、九州地方整備局に「石木ダム事業認定拒否」を求める署名も始まりました。長良川市民学習会実行委員会では全面的に支援することを確認しました。みなさまのご支援を心から訴えます。全国的な連帯の輪を広げ「国土強靱化」ストップの波を起こしましょう。

特集 長良川河口堰と塩害（１）

甚大な環境悪化と利水の需要が望めない現実の下で、長良川河口堰の開門を求める声は高まっています。そして、速やかな開門調査実現が課題となっています。国は「更なる弾力的運用」を実施し水質改善をめざしていますが、「海水は一切入れない」前提の運用で、私たちが求める汽水域回復とかけ離れたものです。また、愛知県で長良川河口堰の検証が進む中、岐阜県議会は2011年10月「長良川河口堰適正運用を求める決議」を採択し河口堰開門調査の動きを「塩害発生は絶対許さない」との理由でけん制しました。このように現在、開門調査実現にあたって「塩害」問題が最大の障害となっています。本NEWSでは、これまでの「塩害」問題の議論をおさらいをしながら、さらに踏み込んだ検討を2回にわたって特集します。

水資源開発施設長良川河口堰を「治水施設」と喧伝

長良川河口堰計画は1959年（昭34）「逆潮用水堰計画」、1960年（昭35）「河口ダム構想」の名で伊勢湾の工業地帯の水資源開発施設としてスタートしました。しかし、河口で川の流れを遮断するこの計画は上流側の水位上昇による洪水の氾濫や、環境悪化による漁業への影響を恐れる大きな反対を受けることになりました。岐阜県平田・海津各町議会は1967年（昭42）「河口堰建設反対」の決議をし、流域の漁民らは1973年（昭48）26,605名の原告による「河口堰建設差し止め請求訴訟（マンモス訴訟）」を岐阜地裁に提訴しました。

地元の反対が強まる中、国・事業者は河口堰を流域市民の「命を守る」治水施設として喧伝し地元世論の切り崩しを図りました。1976年（昭51）、台風17号により岐阜県安八町において堤防が決壊、大水害（安八・墨俣水害）が発生しました。洪水の怖さを体で知っている地元民にとって「治水」と「お国の為」の二つの言葉には抗いがたいものがあります。声高な「命を守る」河口堰の声は建設反対の世論を分断していきました。建設反対の地元平田・海津町に対し国は手厚い圃場整備事業や地域振興策を約束。1978年（昭53）両町議会は180°態度を転換し「河口堰建設促進決議」を採択し、推進の立場を今日まで続けています。

しかし、安八水害のもとになった堤防決壊は、堤防の欠陥が原因でした。稀にみる雨量にもかかわらず、長良川本堤の水位は建設省の決めた計画高水位を大きく下回っていました。長良川には充分流下能力があり、堤防を越流することもなかったのです。また、平田町や海津町は輪中で守られ、この水害の惨禍はありませんでした。長良川の治水には川の容積を増やす以上に、堤防の強化と遊水機能を考えた流域全体の土地見直しなどの総合的な治水が大切なことをこの水害は教えたものと言えます。

河口堰建設の国の論理

さて、河川を遮り洪水の災害の引き金となる「河口堰」がどうして治水（洪水対策）施設なのか？この矛盾に対し国・事業者は「治水→しゅんせつ」を前提に、図-1のような模式図を使い以下のような説明をしています。

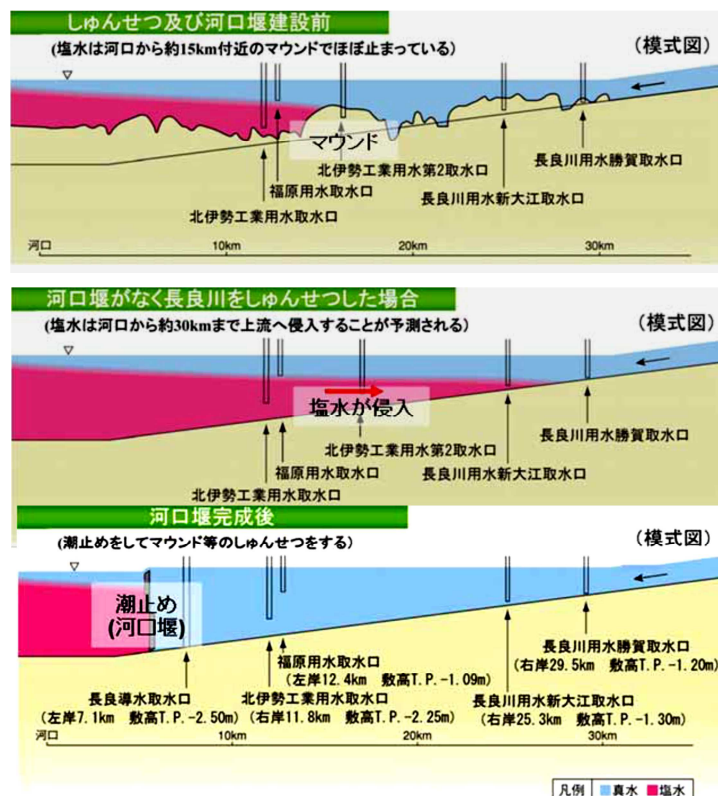
河口堰がなく、しゅんせつする前の長良川は、川の水量が少ないときでも河口から約14~18km付近にある「マウンド」と呼ばれる上下流に比べ河床の高い部分で塩水の侵入がどうにか止まっている状況にありました。

ところが、長良川を計画どおりしゅんせつして川底を全体に下げると、約14~18km付近の「マウンド」で止まっていた塩水が、河口から約30kmまで侵入することが予測されます。

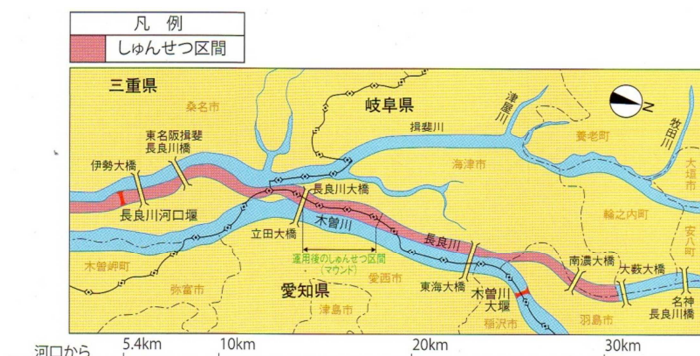
これに伴い今まで塩害のなかった地域においても河川水が塩水化し、河川から取水している用水が利用できなくなるば

かりでなく、堤内地の地下水、土壌も時間の経過に伴い塩水化して、農地としての使用に影響が出るとともに将来の土地利用にも大きな制約が加わります。

長良川河口堰は、河口部で潮止めを行うことにより、このような塩害を事前に防止して、安心してしゅんせつができるようにする役目をもっています。また、上流域を淡水化することにより新たな水資源開発がなされました。



図ー１ 「愛知県長良川河口堰最適運用委員会 2012 年度まとめ」より



長良川河口堰が利水施設として必要ないことは建設時点で明らかでした。着工が大幅に遅れた大きな要因に、需要拡大の見込みがなくなっていた三重県工業用水が参画できない事態がありました。堰が運用されて18年、最大の目的であった工業用水は三重・愛知両県において一滴も使われていません。わずかに水道用水として押し付けられている知多地域や中勢地域も河口堰を利用しなくても給水は可能です。2012年に始まった愛知県長良川河口堰最適運用検討会では木曽川へ水源を戻す検討がされています。利水に不要、環境悪化促進施設長良川河口堰は、「塩害対策」という最後のベールに隠れて存続しようとしています。でもその「塩害」も幻のようです。

パンフレット「INFORMATION 長良川河口堰」より加えて、河口堰建設以前の図ー2のマウンドの写真を掲載し、かつてはこれが塩水遡上を止めていたと「証明」して見せます。

つまり、(洪水対策のしゅんせつ) → (マウンドを取り去る) → (塩水が遡上) → (塩害が起こる恐れ) → (河口堰を建設) → (溜めた淡水を利用) ということで、長良川河口堰は「塩害」を防止するための施設の様です。

しかし「塩害」は発生するのか？

本NEWS16号では、粕谷志郎岐阜大学教授(元愛知県長良川河口堰検証専門委員)による「塩害は起らない」稿で「かつて塩水遡上はマウンドで止まっていたのか」、「国が描く塩水遡上モデルは正しかったのか」などを検証します。

塩水遡上＝塩害ではありません。次号17号では元長良川河口堰建設差止請求訴訟弁護団の在間正史弁護士に「長良川の塩水遡上で塩害が発生するのか」検証していただく予定です。

●河口から約14～18km付近にあったマウンド



大潮の干潮の時、川の中から姿を現していた

図ー２ 「INFORMATION 長良川河口堰」より

塩害は起こらない

長良川市民学習会代表 粕谷志郎

河口堰を建設した目的は塩害の防止です。河口堰がなかったら本当に塩害が起こるのでしょうか。この話は二段階の曖昧さの上に成り立っています。いや、ウソと言い切ってもいいでしょう。ウソだと言い切れるのは旧建設省が実測した図-1からです。

1) はじめのウソ

「塩水はマウンドでほぼ止まっている。」

図-1は、マウンド（河口から15kmあたり）以外の浚渫が終わり、河口堰を降ろす前の塩水遡上データです。塩水はマウンドをものともせず20km近くまで上っています。いくつか条件の異なる日にも測定されていますが、どこまで上るかは流量次第です。このときの流量は35m³/秒で、渇水に近いレベルですから、かなり上るときのデータです。

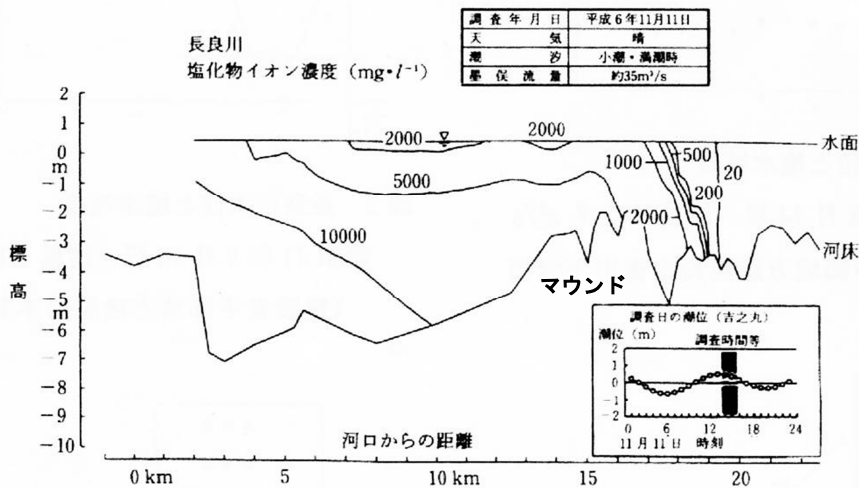


図-1 「長良川河口堰調査 報告書（第4巻）」7-40 平成7年7月 （筆者加筆）

その他にも、旧建設省は面白い実験をしています。海水が河口堰より上流に上っているときに河口堰を閉めています。このときの塩水の動きを測定していますが、このデータも全く同様です。このときは、河口堰を運用する前ですので、マウンドは残しています。河口堰を閉じて流れが無くなると、塩水はどんどん上流を目指しました。マウンドで塩分が足止めを受ける様子もなく塩化物イオン濃度5,000mg/Lの塩水が25km近くまで達しています。ちなみに海水の塩化物イオン濃度は19,000mg/Lあたりです。マウンドに塩水を止める機能はまったく見られなかったのです。塩水遡上に何らかの影響を与えているならマウンドを境に塩化物イオン濃度が多少違っていいでしょう。“まったく“そんなことはなかったのです。マウンドは塩水遡上に何の影響も与えていなかった。これが、データを正しく読んだときの結論です。さらに付け加えますと、汽水性（塩水を必要とする）のゴカイが32kmで確認されています。これで、「塩水はマウンドでほぼ止まっている。」はウソと言い切ってもかまわないでしょう。

2) 二つ目のウソ

それは「塩水は河口から約30kmまで上流に侵入すると予想。」です。

旧建設省はシミュレーションを行っています。「河川工学」（吉川秀夫著）が原典です。淡水の下に塩水がもぐるとして、境を線で表し、上が淡水、下が海水というモデルです。難しい微分方程式で、本書では幾つかの近似を行って解にたどり着いています。旧建設省はコンピューターを使ってこれを解き、

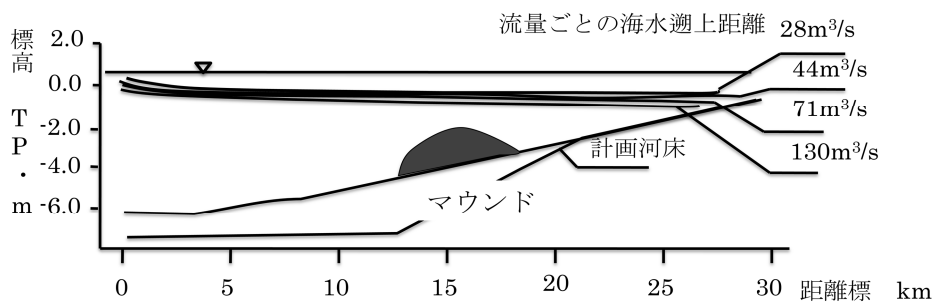


図-2 「長良川河口堰に関する技術報告書」3-33 平成4年4月 (筆者加筆)

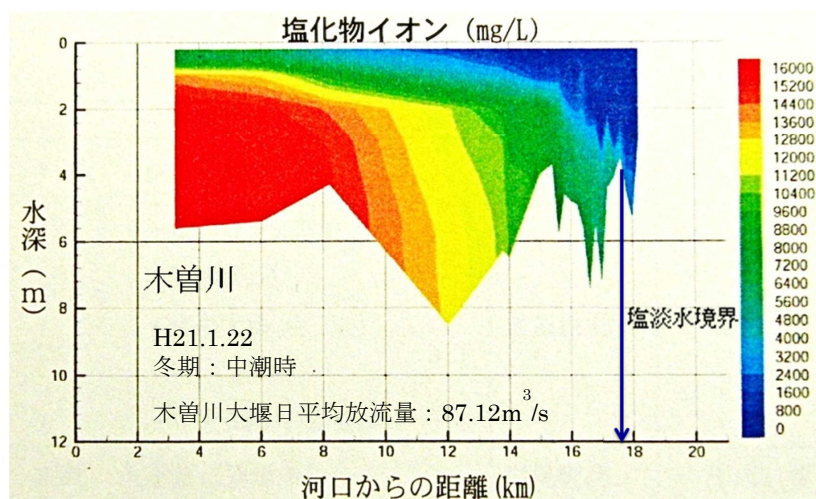
遡上の図を作りました。
それが図-2です。シミュレーションと言え高度な計算でコンピューターを使わないとできない。そう、スーパーコンピューターが要るとか。でも、これは、エクセルが使える

れば可能です。計算の過程はさておいて、なにか違うと思いませんか？そうです、既存のデータが入っていません。これはシミュレーションとして使うことはできません。

図-2の線（ほとんど直線）の上は真水、下は海水です。図-3は木曽川の塩化物イオン濃度の実測値です。シミュレーションと実測が全く合いません。濃い塩水が線を引いたように遡上するなどということは決して起こりません。押し戻されて混合しながら上っています。必ず濃度勾配ができます。9kmあたりで16,000mg/Lあった塩化物イオン濃度が18kmあたりで2,400mg/Lになる、美しいグラディエントが形成されているのが見て取れます。もう一つ大事な違いは、遡上の先端の形です。図-3では各濃度の最先端（最上部）は川底を向いてお辞儀をしているようです。海水といえども液体です。槍を突いたのとは話が違います。流れに押し戻されながら、混ざりながら上ってゆくところになるのです。図-1もそうです。これはシミュレーションではありません。別物です。

河口堰を開いたら塩水はどこまで上るのか？

答えはもう出ています。図-1と全く同じになります。流量が35m³/秒での測定ですので、流量によって上下します。800m³/秒*になると塩水は河口堰下流まで押し戻されます。流量がゼロになると、おそらくシミュレーションのようになるのでしょう。「開門して実測しましょう。」ではなく、「開門して、図-1のようになることを確認しましょう。」です。



塩害は起こるか？

図-3 「木曽川水系連絡導水路事業環境レポート（案）」資料-5-19 (筆者加筆)

起こりません。高須輪中で、かつて一度も塩害の記録がありません（揖斐川からのものを除外）。「塩害」はどこにも正体（実測）のない創られた幻影です。

*現在墨俣地点流量が800m³/秒以上になると洪水対策として長良川河口堰は全開されています。

2013. 3. 20 長良川市民学習会報告

「長良川のアユ、いま・むかし」を語る（２）

3月20日に「長良川のアユに何がおきているか？」をテーマに学習会を行いました。3人の漁協関係者から直接長良川の話を知ることができるということで、会場は110人を超える参加者で満員でした。4割近くが初参加で、長良川環境悪化を心配する市民の多いことを改めて感じました。長良川の‘全盛時代’は昭和30年代（1955～64）だったそうです。その後、公害による川の汚染、上流部の開発、河口堰建設、その関連工事などによって長良川環境が大きく変化してきたことが魚を通して語られました。かつてのような長良川を取り戻すためにはどうすればいいのでしょうか？前号15号の山中茂さんへのインタビューに続く「長良川の今・昔」のパート2です。聞き手は第1部の講師の新村安雄さんと当会代表粕谷志郎。今後もこうした会を続けていきたいと思っています。ご希望・ご意見をお寄せください。



新村安雄（にいむら やすお）

1954年（昭和29年）生まれ。静岡県出身。

愛媛大学大学院で水域生態学を専攻 理学修士。フォト・エコロジスト。リバーリバイバル研究所・サツキマス研究会代表 水中に棲む生物の視座から自然、環境問題に発言をしているエコロジスト。



山中 茂（やまなか しげる）

1932年（昭和7年）生まれ。岐阜市鏡島出身。

10歳ごろから漁を始めるアユ漁の第一人者。長良川漁協の重鎮で現在副組合長を務める。魚道の研究や孵化事業に大きな貢献。長良川の河川工事等も経験し治水にも詳しい。



大橋 亮一（おおはし りょういち）

1935年（昭和10年）生まれ。羽島市小熊町出身。

祖父から三代の川漁師でサツキマス漁を守り続けている。弟の修さんとともに長良川を守る取り組みに大活躍。現在、長良川河口堰最適運用検討委員を務める。



中山 文夫（なかやま ふみお）

1952年（昭和27年）生まれ。美濃市加治屋町出身。

子どものころから父親と夜網漁をする。現在、長良川中央漁協副組合長を務める。長良川河口堰漁業補償問題にかかわり平成7年以来漁協役員を務める。

－ 河口堰閉鎖の前と後では川や魚の様子はどう変わりましたか？

山中 以前は河原にワンド（水が引くと河原になる入江）があり、清水が湧いていた。そこには年越し2年アユがおり、そこで年を越した大きなアユが早く上流に上っていった。大きなサツキマスもいた。それが今はなくなってしまった。

新村 地下水が少なくなり、湧水の湧く所がなくなってしまった。護岸をコンクリート化したせいかもしれない。

大橋 堰閉鎖後、2年くらいは結構漁ができた。「ええがや」と思っておった。はじめは、まんだ川底が昔と同じやったが、次第に悪なり石がなくなってまった。アユは石につく藻を食べるが、それがなくなってまい、アユもドンドン減り、10年前には、もう放流もせんでもええ、という川になってまった。アカン川になってしまいました。あんだけいたウグイも消えてまった。アユは以前は、夕方から夜中にか



木曽川下流のワンド

けて漁をして、兄弟二人一晩でそれぞれ300匹とらえたら帰りました。選別して、20匹入る箱に30箱を朝、市場に出しました。

－ 何年ほど続けられましたか？

大橋 3年であかんようになった。NHKの取材で再開してみたが、やはりいなかった。カマツカが2、3匹おっただけで、石にはヘドロがついていた。

中山 中流（中央漁協域：岐阜市と関市の境から上流）では、昔は船一艘（漁師は2、3人）が一晩で20万～30万になった。ヒブリ漁（火振り漁）・ヨアミ（夜網漁）は夕方、手相が見えなくなったら出漁しました。親父と行った子供の頃は、火を点けると、アユが飛び込んできました。6月1日の初網では網からははずせない程、2000匹くらいとれました。今は、数匹。昔は魚屋が仕入れにきたが、今は皆で分ける位。

－ アユを増やす努力をしておられますね。

山中 河口堰ができてから、堰の横の人工河川を使ってアユの孵化事業をやっています。岐阜市から羽島市辺りのアユの産卵する所でアユを捕まえ、受精させた卵をこういうシュロに付けると3日程で眼がでる（ガイワレ・眼割れ）。そうしたら堰まで車で運んで設置する。それが孵化して海に下って行きます。



－ 平成17年に始まって、18年、19年の500万から600万粒が平成20年から3100万、21年が6000万、22年が8900万粒と増えています。

山中 最初の頃はなかなか上手くいかず、初めは全部死んでしまった。水温が高いと腐ってしまう。9月後半から10月に種付けをする。一番早かったのは8月15日。初めは個人ではじめたが今は組合でやっている。でもやっとするのは年寄りばかりで後継者がいない。厳しい仕事だしどうなるか。

－ 他の魚はどうですか？

大橋 今、天然記念物になっているイタセンパラ、あんなもんはいて捨てるほどおったわね。ちょっと川へ行って捕まえて、苦くて食えんので腹を出して甘露煮にして食べた。ハリウオも長良川の下流の清水の湧くところに一杯いた。ウナギが絶滅危惧種？おかしいわね。昔はどんだけでもいた。冬はワンドの泥の中に蜂の巣のように穴をあけてもぐっていたのをウナギかけという道具でたくさんとった。養殖のウナギなんかなかったです。

中山 サクラウグイは春が過ぎると集団でのぼってきた時代もあったが、今は全然いない。

新村 ウグイは春に産卵するので、そう呼ばれている。

山中 河口堰が出来た頃、呼び水魚道を登るのを見たことがあるが、今はダメです。

新村 呼び水魚道はアユの為に造ったものだから、ウグイにはとっては上れない構造で役立たない。僕はアユより美味しいと思っているんだけど。

大橋 河口堰がないときには流れがあった。今は池みたいなもんです。サツキマスは流し網で獲るが、流れがゆっくりになると魚に網が分ってしまっただけで獲れない。魚は賢いんです。サツキマスは高価だしスリルもあり、漁師としては楽しい漁だけど。前は兄弟二人で5月に1000匹、シーズンで2000匹位獲った。堰が閉まってから10年間調査したが、だんだん減って800匹が500匹に、200匹以下ということもあった。

－ 大橋さん以外にサツキマス漁をする人は他におられますか？

大橋 私らは下流から38キロ辺り。昔は、それより下流に30カ所は漁場があったが、全部やめた。4キロごとに、5～6人位いた。サツキマスは一日4キロで上がってくる。今は私んらが最初の関所。上ってくる時期も前は4月20日頃から5月20日頃までだったが、今は5月の連休頃から6月20日頃まで。2週間は遅れるようになった。

大橋 モクズガニ漁は前は川全部を仕切る地獄網だったが、今は海の籠網を使っている。籠の中に海の魚のアラを入れて獲る。アユ漁に邪魔なので、アユ漁が終わる10月1日から本川で解禁。支流はいつでもできる。モクズガニは5年～7年、川にいて海に下って産卵。やはり年々減ってきている。

－ 環境ホルモンの調査をした時、ずいぶん大きいコイを見ましたがどうですか。

大橋 食生活が変わり、アユやサツキマスなど回遊魚以外、ナマズやコイなど自分でさばいて料理するような魚は売れない。特に大きいものは川に放流してこい、と言われます。

中山 最近、中流では案外増えてきたものもある気がする。カワヨシノボリが登り落ち漁で、だいぶとれるようになってきた。上下水道が整備され、水が綺麗になってきているせいかもしれない。とりすぎないよう数の制限をしている。

中山 アジメドジョウもちょっと増えてきたが、2000年の東海豪雨で土砂が流れ込んで、川が砂っぽくなってしまっている。上流のスキー場やゴルフ場などの影響があると思う。

新村 2005年にカヌーで下ったとき、川のあちこちで砂が溜まっているところを見た。高速道路工事の土砂が流れ込んだせいかもしれない。

中山 川の中央に砂が溜まり、草木が生えて魚が棲みにくい川になってしまっている。

－ 長良川の漁師さんはどれ位いますか。

中山 専業の川漁師は生計がたてられなくなり、ほとんどいません。増える見込みは今のところない。組合員の平均年齢も65歳以上。今後は川に接する人を増やしたいし、漁師が何をしているか、参加して知って欲しい。

－ 漁業組合は河口堰の開門調査などについてどうされますか。

中山 中央漁協の総代会で河口堰開門の要請書を出そうということになり、地元の県会議員に渡しました。

大橋 長良川漁協では、せめてアユの産卵期だけでも開けて欲しいと役員会では話している。全体としては表立ってはいないが、一人一人は同じ気持ち。漁対協（長良川の7漁業の漁業対策協議会）で検討してもらうことになるだろうと思う。

－ 海の漁師さんは堰を開けるとノリに影響がでるので開門に反対していると聞いている。海と対立しているように見えるが。

大橋 誤解があるのではないかなと思う。昔のような海と繋がっている川に戻したいということです。川は流れてこそ川。川の栄養分が海のノリを育てる。専門家などにきちんと説明してもらうことが大切だと思う。

－ エドワジェラ・イクタルリという細菌感染で魚が大量に死んだということだが。

新村 良く観察して、早く対策をとることが大切。昨年の夏、川によく行く人から、川底が真っ白になる位アユが死んでいると聞いて翌日見に行った。実は8月上旬から起きていたようだが、岐阜県が公表したのは9月18日。この病気は水温が20度以上の高いときに起きやすい。堰を開放すれば、アユは早く下り、早く上るようになり、病気が流行る時期とずらすことができ対策になると思う。

－ 西濃地区では川鵜が増え、アユを食べてしまって困っているが。

大橋 長良川漁協では、アユの産卵地区で被害が多い。右岸の瑞穂市側は禁猟区ではないので120～130羽を駆除している。左岸の岐阜市側の保護区では、爆竹、花火などで対策をとっている。

－ 川の様子が悪くなっているということだが。

新村 2005年にカヌーで下ったとき、川のあちこちで砂が溜まっているところを見た。高速道路工事の土砂が流れ込んでいるのではないかな。

中山 川の中央に砂が溜まり、草木が生えて魚が棲みにくい川になってしまっている。

大橋 水量が減り川が浅くなり、砂ばかりの河原になっている。下



流では水の流れが遅くなり、流れない。このように魚たちが棲める川ではなくなっている。

会場から これ以上改修工事など河川工事をして川をなぶらないで欲しい。まるで高速道路のような川になってしまっている。

会場から 川漁師を継がせないとか、魚が少ないとか暗い話ばかりだが、長良川は岐阜市や関の小瀬の鵜飼など文化的に本当に大切なものです。もっと未来が開ける前向きな意見を聞きたいです。

漁協は長良川を守るために、ぜひとも頑張ってください。

<会場参加者のアンケートから>

- ・漁師さんらしい言葉がとてもよかった。ウソのような本当のお話で残念です。自然を元に戻すのがいかに難しいかを感じます。
- ・「川は流れてこそ川」「河口堰も大きな原因だけど、川自体の水量も減り川が年々おぞい川になってしまった」が印象的。護岸工事も悲しい。山を守ることが基本になるのでは。
- ・堰建設後1,2年でサツキマスもアユ等の遡上に影響が生じて、子供の頃の状態で全く異なっている現状に驚いている。河口堰は明日にも開け、川の流れを昔に戻す必要を痛切に感じています。昔の長良川を取り戻したい！
- ・河口堰建設以前からの30年間以上の変化を、見事に詳しく話してもらって感激した。さすが、魚を生活のたつきにして、数代過ぎて来られた方の知識で、まことに素晴らしい。
- ・長良川河口堰の開門は国や自治体、住民の利害がからんで難しいが、環境改善という大きな目標で一致できるといい。
- ・釣り人のためにもがんばってください。釣り人が来れば、岐阜も関も郡上も栄えます。
- ・長良川の現状の問題点を分析した、「長良川白書」を作成し、具体的な「長良川再生プラン」の青写真を市民に提言してはどうか。

(文責 田中万寿)

「長良川の鮎の魅力にとりつかれて」 久米 等 (名古屋市在住)



今年の長良川郡上漁協解禁は6月9日、なんと約5,500人もの友釣りファンが長良川を埋め尽くしました。河口堰を乗り越え天然遡上アユは、過去3番目の遡上量で上流を目指しました。とは云え、94年に堰ができてからの統計ですから、昔と比べれば桁違いに少ないのでしょうか。それでも鮎の魅力にとりつかれ、友釣りに入れこみ、首を長くした釣師が全国からわざわざ長良川へ馳せ参じるのです。良型の鮎が竿を折れんばかりに引き絞り、釣り人の狩猟本能を掻き立ててくれます。これは釣ったことのある人にしか解らない醍醐味です。今年は猛暑と休日前の大雨で、勤め人には寂しい釣行回数となっていますが。

昨年は、「エドワジエラ・イクタルリ」に感染し、川底に白くなって横たわる鮎を何匹も見ました。幸い今年はまだ、あの恐ろしい光景には出会わずにいます。然しながら猛暑による渇水と高水温で、発症が懸念され油断はできません。お盆を過ぎ、友釣りも後半戦、更にパワーアップした鮎は産卵の為、郡上から美並そして美濃、岐阜市へと川を下ります。秋、街の喧騒をよそに、川では諦めの悪い釣り人は30センチに迫る巨鮎と、さながら水中の格闘技を繰り広げます。しかし産卵は年々遅くなり、鮎も小型化しています。新村安雄さんは岐阜市内で「鮎の産卵を観る会」を23年間行ってきました。昨年11月3日の会では残念ながら産卵シーンを観ることができませんでした。生まれた仔鮎は川の流れに乗って伊勢湾を目指します。果たしてどれだけの仔鮎が河口堰を乗り越え海へ出られるのでしょうか？

釣ってよし、食べてよしの長良川の「鮎」。川の恵みどころか「宝物」に他なりません。



校歌に歌われた長良川 ①⑥

岐阜大学教育学部付属小学校の歌

作詞／岸 武雄

作曲／山田 三里

さわやかなあしたの空に

どつしりと動かない山 金華山

ああ あのように

付属に学ぶわたしらは

なかまのしあわせ願いつつ

静かに強く 生きようよ

山々の緑うつして

さらさらと美しい川 長良川

ああ あのように

付属に学ぶわたしらは

なかまのしあわせ願いつつ

やさしく清く 生きようよ

美濃平野ひろがるところ

さんさんと輝く光 陽の光

ああ あのように

付属に学ぶわたしらは

なかまのしあわせ願いつつ

明日の世界を きずこうよ

1873年（明治6年）に岐阜師範の付属小学校として始まり、1954年（昭和29年）に岐阜大学の付属小学校となりました。抽選で入学した生徒数は700人程で、学校は岐阜市の南部、加納の旧加納城址にあります。

作詞の岸武雄さんは付属小学校の初代副校長でした。この歌の他に「三つの願い」という愛唱歌があり、その中には「自分の頭で考える、やさしい胸で助け合う、じょうぶな手足で作り出す」などの教育目標の願いがうたわれています。岸さんは長良川の宝暦の治水工事を題材にした「千本松原、根斐川の（宮久の渡し）」に伝えられた民話を元にした「あほろくの川だこ」などの児童文学書の作者でもあります。

（田中）

事務局より

●7月14日の長良川リバーツアーに参加し、何十年ぶりかで長良川に遊んでもらいました。今は亡き西部さんと笑いながら川下りをしたようで清々しい一日でした。（岡 久米子）

●今年もとても暑かったですね。仕事で何度も気分が悪くなったり、眠くなったりしました。私の人生はまだ短いですが、こんなに気候が変わるなんて！ゲリラ豪雨もあれば反対に渇水という地方もあり、改めて水のありがたさ、怖さを感じさせられました。（中川敦詞）

●国の借金1000兆円は自民党政権が作りました。それでもまだ無用なダムと導水路を造ると言います。国の破綻がわかっていて尚、やるのは「未必の故意」という有罪であり裁かれなければなりません。（粕谷豊樹）

●8月中旬に千鳥橋の下流で友釣りをやってみました。ここで大変なのがまずオトリアユの確保だ。河口堰が閉まってから岐阜市街にあったオトリ屋さんがすべて廃業してしまった。だから今は長良川中央漁協管内まで買いに行き、千鳥橋まで戻ってこなくてはならない。その釣果は3時間ほどで、16～18センチと今の時期にしては小振り

のものが3匹だった。河口堰が閉まって以来だから18年振りの友釣りでの釣果だ。問題はこれをどう判断するかだ。

「アユはいる」と言って良いのか悪いのか。私自身はこの3匹を見ながら、私のへばな腕でももっと釣れていたかつての長良川を思うとやはりさびしいものがあつた。（堀 敏弘）

■なごや環境大学共育講座

「よみがえれ長良川」

●日時／9月29日（日）14:00～16:00

●会場／東別院会館2F会議室（地下鉄東別院より徒歩3分）

●講演 「長良川の漁、いま・むかし」

大橋亮一さん
（長良川漁師）

「長良川の自然と魚たち」

向井貴彦さん
（岐阜大学准教授）

なお、この講座は2013年度「伊勢、三河流域圏ESD講座」として位置づけられました

発行：長良川市民学習会 <http://dousui.org/>

代表：粕谷志郎

連絡先：武藤 仁／090-1284-1298

〒500-8211 岐阜市日野東7-11-1

●私たちの運動はみなさんのカンパで成り立っています。

賛同してくださる方はぜひカンパをお願いします。

郵便局口座番号：00840-3-158403

口座名称：長良川市民学習会